

新潟県

公民館月報 10

平成9年10月号 通巻第536号



特集 「学社融合」についてその2

視点 公民館回想

ひろは 藤に魅せられて

実践記録 サバイバルウォーク

サークル交流 軽音楽をみんなでワイワイと大正琴で（両津市）

マジックで人との交流を深め若さを保とう（黒埼町）

素顔拝見 須沢 和（青海町）

関 陽子（小千谷市）

表紙 漢学の里
（下田村中央公民館）

平成9年度公民館等管理者研修会開催される

『学社融合を考へる』

共催 新潟県立生涯学習推進センター

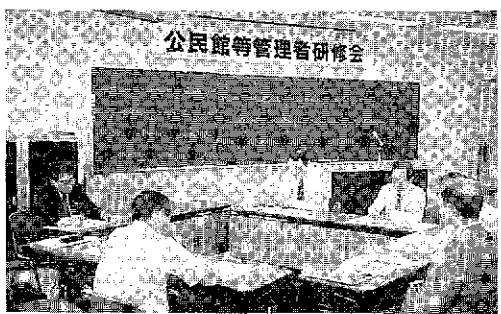
去る9月12日(金)、生涯学習推進の中核施設として公民館の管理運営の在り方について研修を深め、市町村の生涯学習推進、社会教育の一層の振興・充実を図り、併せて管理者としての資質向上を図ることをねらいに、研修会が開催された。

九月は、県公連にとつても



公民館等管理者研修会

熱弁を振るっての今村先生のご講義



公民館等管理者研修会

グループ協議の一コマ

午前中はグループ協議で「公民館管理運営上の問題とこれからの方向」ということで、県立生涯学習推進センターの社会教育主事の先生方がコーディネーターとなり、参加者が抱えている管理上の諸問題、指導上の留意点等について、和やかな内に熱心な討議が展開された。

上・中・下越地区公連で役員研修会を主催しているため、30名という少数精鋭の参加であった。午前中はグループ協議で「公民館管理運営上の問題とこれからの方向」ということで、県立生涯学習推進センターの社会教育主事の先生方がコーディネーターとなり、参加者が抱えている管理上の諸問題、指導上の留意点等について、和やかな内に熱心な討議が展開された。

「学社融合を考へる」ということで、国立教育会館社会教育研修所主任研修指導主事今村隆信先生のご講義がなされた。豊富でしかも分かり易い資料を駆使しての、熱意あふれる先生のお話は、思わずそこに没入できるような雰囲気と迫力があつた。

ご講義の主な柱立ては、一、生涯学習推進のキー・ワードとして(1)広域的学習サービス網の整備(2)生涯学習のまちづくり(3)学習成果の評価と活用(4)青少年の学校外活動の充実、二、家庭・学校・地域の連携・融合の必要性として(1)学校教育は飽和状態(2)家庭の教育力の低下(3)地域の教育力の衰退…地域のネットワークの崩壊等、三、学社融合を考へるといふメインテーマでは、(1)学社連携と学社融合(2)学社融合とは…(3)学社融合のパターン(4)具体的事例で考へる等で締めくくられた。

閉会後も、二・三の館長が所長室で、今村先生を開んで熱心に話し続けられていた姿が実に印象的であった。

中越地区公民館役員等研修会開催

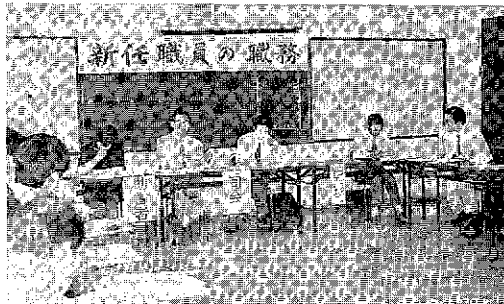
— 十日町市公民館設置50周年記念事業 —
内容充実、多大な成果を残して終了

中越地区公民館連絡協議会・十日町市公民館主催による上記研修会は去る9月2日(火)十日町市公民館を会場に約160名の参加を得て、多彩なプログラムとすばらしい講師陣と熱意あふれるスタッフ・参加者が相まって、終日大変充実した研修が開催された。

公民館が誕生して50年、この大きな節目に「いま、公民館の職員や委員は何をなすべきか」という大テーマを掲げ、基調講演・分科会・シンポジウムと、これは研修会というよりはむしろ、研究会と呼称するにふさわしい大会であった。

十日町市公民館設置50周年記念事業と併せて開催した関係で十日町市とご縁の深い先生方から、公民館誕生し歩み発展し今後の展望等を含めて全国的なレベルでのご指導いただいたことは、中越公連からの参加者はもちろん、この好企画に上・下越地区からの参加者にとつても大変有意義な研修会であった。

このようすばらしい研修会を企画された十日町公民館に敬意を表する次第である。



新任職員の職務

中越公連、分科会討議の一コマ

上越公連審・職員合同研修会終了

上越公民館連絡協議会主催による上記研修会は、去る9月3日(水)午後1時30分より、国民健康センター上越を会場に、65名の参加を得て開催された。

基調講演には、当県公連顧問で前事務局長上村捨二郎先生から「公民館活動全般について」と題してお話いただき、その後、三つの分科会に別れて討議した。

終了後の情報交換会では、今後の研修について前向きな話が出されたとか。

平成9年度第3回生涯学習関連施設等職員研修会開催要項

社会教育法が変わる！
「今後の社会教育のあるべき姿を探る」

- 1 趣 旨 生涯学習関連施設職員が相互に県民の多様な学習ニーズに応えられるようにするために、施設間並びに職員相互のネットワークを構築する。
- 2 主催 新潟県立生涯学習推進センター
- 3 共催 新潟県公民館連合会
- 4 期 日 平成9年10月21日(火)
- 5 会 場 新潟県立生涯学習推進センター 大研修室
- 6 対象者 公民館、図書館、博物館、青少年教育施設等の職員
社会教育委員、公民館運営審議会委員60人
- 6 日 程
9:30 10:00 12:15 13:30 16:15 16:30

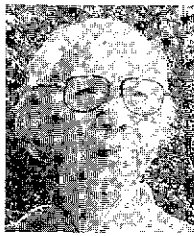
受付	研修1 事例発表・研究協議 「住民にとって魅力ある施設運営を考える」	昼食	研修2 講義 「21世紀の社会教育はどうあるべきか」～社会教育法の見直し～	閉会式
----	---------------------------------------	----	--	-----

- 7 講師及び事例発表会
研修1 事例発表 新潟市東地区公民館長 堀 瑞子
豊栄市博物館館長 清水 重蔵
研修2 講義 東京家政大学教授 伊藤 俊夫
- 8 参加申込み
別紙申込書に必要事項を記入し、下記へ申し込んでください。
(1) 申込み締切 応募締切日は過ぎておりますが、参加希望の方は下記へご連絡
(2) 申込み先 新潟県立生涯学習推進センター 学習振興課
〒950 新潟市女池2066番地 電話番号 025-284-6110
FAX 025-284-6019
- 9 その他
近くに食堂が少ないので、昼食用弁当(500円)を斡旋します。御希望の方は、申込書昼食欄に○印を記入してください。なお、都合により申込みを取り消す場合は、10月20日(月)までに連絡をお願いします。(連絡のない場合は、恐縮ですが、弁当代を請求させていただきます。)

視 点

八月初旬 当地秋山郷 切明温泉を 会場に、横 山宏先生主 宰の「公民 館史研究 会」の集会 があって参加した。

今回は、元公民館主 事であった信越両県の 現職村長お二人の話題 提供が中心であった。



公民館回想

滝沢秀一

の狭い一問をそれにながら、職員の一人、事務は机一つ、教具といえるのは米軍貸与のナトコ映画機一台、活動の場は小中学校の間借り的に使

草創期の活動を想起し、脈々と伝わる往時の精神が行政に生かされていくことに深く感じ入りながら私も、当時のひたむきな実践を思い起こしていた。施設といえは村役場

それは三十年の六か村合併後も引き継がれて町全域に普及、婦人学級・青年学級・グループ学習の展開に大いに役立った。こんななかで私はガリバンを

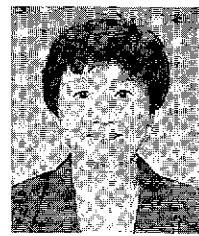
用とムラ回り。そんな実状の中で、いわゆる部落公民館設置の運動が村民の中から起きた。「共同学習」「ムラの茶の間」の掛け声に青年・婦人たちが心を動かしたのだ。

これは、会の末席に居て、半世紀に近い以前、旧村の公民館主事であった私の回想に過ぎないのだが、果たして現在の公民館活動とどうかかわっているのだろうか。施設・設備、体制は時とともに進んだと思うが、職員の熱意、地域との血の通い方にやや不安がある。(中魚沼郡洋南町文化財審議委員)

頼りに、地域に育った学習意欲を横につなぐことに取り組んでいく。これは、会の末席に居て、半世紀に近い以前、旧村の公民館主事であった私の回想に過ぎないのだが、果たして現在の公民館活動とどうかかわっているのだろうか。施設・設備、体制は時とともに進んだと思うが、職員の熱意、地域との血の通い方にやや不安がある。(中魚沼郡洋南町文化財審議委員)

籐に魅せられて

皆川 静子



私と「籐」との出会い は、今から十七、八年前のことです。広報紙に載った「籐手芸愛護生募集」のお知らせでした。

動く手とハサミさえあれば、一本のつるが私の言うまま、気の向くまま、自由に形づくってくれます。指先一つで完成していく花籠、くす籠、パン皿等……。十回の教室も「あっ」という間に終了しました。

子供の頃、我が家には籐椅子と乳母車がありました。その頃の籐製品は高価なものでしたので私には手の届かないものと思っていました。高度な技術を必要とするであろう籐製品。

その後自主教室として続けることになりました。現在では実用品からインテリア品まで安価で販売されていますが、私は編み続けています。一本のつるから曲線を描くことも、立体的なものも生まれてくることも楽しいものです。むしろ楽しいテクニクも必要ありません。基本さえマスターすれば無限の創作意欲が湧いてきます。その日の気分分しいで出来ばえの違い作品ひとつに愛着を感じます。今ではボケ防止にと、せっせと指先を動かしています。

ひ ろ ば

私が作った世界に一つしかない私だけの作品は、私の宝物です。(西蒲原郡黒崎町 公民館運営審議会委員)

籐は、日本では生育しない植物です。東南アジアが主で、ボルネオ、マレー半島、インドネシア等から輸入されています。初めて見る籐は、まっすぐに伸びた一本のつるでした。触るとボキ／＼折れてしまいそうです。水につけると驚くほど柔らかくなります。道具も、自由に

公民館大会より

公民館の役割を考える

公民館活動を求めて

概要報告その2

(前号よりの続き)

吉田 「地方分権」に向けて、住民の意識改革を促す取組みが生涯学習の大きなテーマではないでしょうか。地方分権に向けて、住民意識を促す取組みを、私は是非公民館に求めたいと思います。意識改革については更に発言を続けたいと思いますが、これから社会は、住民の横の繋がりと、これを大切にしなければならぬ。これは、先程ボランティアが必要だということにも通じる訳です。それから地方分権が進んでいく訳ですから、一番上に回が、その下に県があった、その下に市町村があった、そしてその一番末席に住民がいると、そういう縦社会の話ではない訳です。もっと横社会ということをお勧めしなければならぬ、ということですね。私は、住民はもっ

と市民意識に目覚める必要があろうかと思えます。全て上の方に何かお願いをしてやってもらおう、という生き方をしている、それこそ住民が人間として輝き、手ざわりの確かな生き方をすることはできないと思えます。上にお願いで何かやって貰うという社会ではもう駄目です。現実問題として、介護問題にしろ、子育ての問題にしろ、あるいは環境の問題にしろ、文化活動の問題にしろ、どれをとっても全て行政任せでいい。全て行政に任せて、この地域の未来は大丈夫なのかなと、そう考え始めている人達も既に出てきておられます。そうした漠然とした不安、これは尤もなことだと思う訳です。先程も申しましたように、小字化が進んできて、働き盛りの現役世代が少なくなってきた訳ですから、全て行政任せとはいかなくなるということですね。そこで、住民がやることはお互いに協力しあうとやるのと、力を出し合おうとやるのと、そういう意識が大切になってくると思います。それも生涯学習として学ぶ必要があるのではないのでしょうか。そういう意識革命の取組みを私は是非公民館にやってほしいと、そう願う訳です。メモを片手にみんなが地域の中を歩いてみて、地域の歴史とか自然とか、あるいは暮らしの変化の様子とかを調べて、それを公民館に持ち寄って来て、それをネタにして茶飲み話でもするといい、そんな気軽な気持ちで、地域づくりに向けた学習を是非繰り返してほしい。これは公民館が中心になつてやるべきテーマではないか、それが住民の意識革命に繋がっていくと、そう考える訳です。

住民の意識革命を促すということ、新しい住民づくり、人づくりということになります。人づくりは正に地域づくりのということになるのではないのでしょうか。

三つ目の話は「学社融合」のことで、文部省は、なかなか言葉を作るのが上手ですね。その前は「学社連携」。「学社融合」どこがどう違うのか、これはちゃんと解説もあるんですけども、簡単に、口には言えませんが、「大人が子供とどう向き合うか」という問題だと思えます。私たちは親として子供を大事にし、優しく育ててきた訳です。しかし今、子供たちはどうでしょう。突如として非行に走るケースがあります。物事を深く考えることなしに、自分が悪いことをすることで相手を如何に傷つけているか、また悪いことをす

ることで自分自身の心も傷つけていると。そういうことを深く考えもせず遊びがはしゃいとか、もっとスカッとしてみたいとか、いい気持ちになってみたいと、短絡的に非行に走っております。

：社会とどう関わっていけばいいのかが、といった人間の生き方の問題については、私たちは子供たちと真剣に語り合ってきたことがあったのかなと、今そういう反省を迫られているのではないかと考えます。大人は、これまで以上に真剣に子供と向き合わなければならぬ。これは学校も家族も家庭も地域社会も、そういうことが言えると思います。ただ物を与えればいい、子供に優しく接していればいいというだけでは、もう駄目だと思えます。時には、身を震わせて子供を叱ることも大切だと思えます。私たちは、家庭も地域も社会も、みんな優しく子供たちと接してきたのですが、しかしその実態は、親の手を離れていくにつれて、子供の姿を見る見方ですね、目の端っこにチラッと見ている程度だったんではないかなと、私は自分の反省も含めて、今反省をしている訳です。今までのような、そういう接し方では駄目なんだと、これも意識改革ではないでしょうか。公民館が主体となつて、学校も地域も家庭も巻き込んで、是非その意識改革の取組みに入っています。

私はそのように思っています。

小宮 吉田さんからは、3点にわたってご提案がございました。「生涯学習社会」が目指すものはなんなのか。人として輝いている人間を皆さんが望んでいるのだと。

小島 2点ほど補足させていただきます。「国際化」ということで、海外へ出る機会が多い訳なんですけど、なんといっても言葉で、英語が一番通じやすいのです。どこへ行っても大体英語を喋る人が多いということですが、ただ残念ながら高校を卒業した子供たちが、あれだけ勉強をしても英語を喋れるかというと、知識は十分にあるのですが、会話となるとちょっと違いまして、これは大きな学校教育の欠陥として最近グローバルアップされている訳なんです。理論はきつと頭の中に入っているのですが、会話のキャッチボールとなると、なかなかすつと出てこないようですね、英会話のサークルに入っている人は別として、普通で今の学校教育を受けて卒業して、喋れる子というのは5%に満たないのではないかと。ただそこから先、趣味のある子、あるいは我々が必要に応じて英会話をやれと言って、自分でNHKのテキストを買ってきてやるという難しい訳でして、これが公民館活動なんか結構沢山の英会話スクール等があります。そこでトレーニングしてもらって、これによって、本場に響く程早く英会話が上達する訳なんです。この辺の所が「学社融合」という公民館活動が社会に役立つところではないかということ、私たちが産業界から見えて感じています。

もう一つ、皆木先生の方から、わかめを採って自分の島のブランドで発

○コーディネーター

小宮 皓 様

(荒川町立荒川中学校長)

○話題提供者(発言順による)

小島 啓 一 様

(新発田商工会議所議員)

森山 ヒナ子 様

(新潟県婦人連盟理事)

皆木 邦夫 様

(粟島浦村立粟島浦小、中学校長)

吉田 紀 様

(新発田商工会議所議員)

小宮 皓 様

(新発田商工会議所議員)

小島 啓 一 様

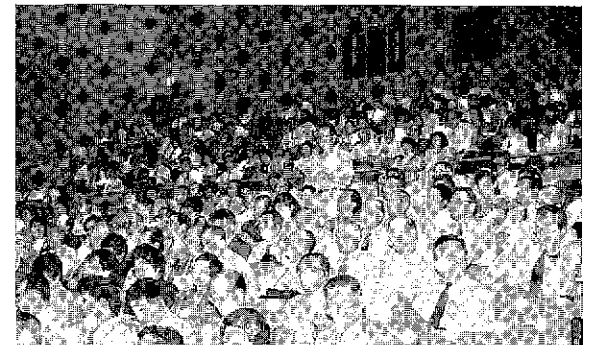
(新発田商工会議所議員)

特集 第48回 新潟県

「生涯学習をめざした —学社融合による魅力ある

シンポジウムの

森山 先程私が申し上げましたのは、吉田先生がおっしゃったとおり、大人が子供とどう向き合うかということ。今、大人に欠けている面がそこだと思います。自分の家の子供だけよければいいという考えの大人が多い。そのため、子供は家庭だけでは育てられないものであって、地域で育てるものというふうに私も昔から聞かされておりましたし、そういうものだと考えております。地域の大人の人が、家庭では出来ないことを助けてあげられる、子供と向き合っている状態では、今のところ無いような気がいたします。公民館とは、地域づくり、人づくり、ということになっております。是非、大人の意識改革、それをやつていただきたい、地域ぐるみで子供を見守つていただきたい、と考えております。公民館の役割は大変ですけれども、私も一緒に頑張りたいと思いますので、是非お願いしたいと思っております。



りました。県内市町村でも出前講座をやっているところがある訳ですが、その出前講座を学校でやるというものです。例えば今年度の例をみますと、全町を挙げて出前の学習メニューを作りましてそれを学校の方に、教育委員会の方からマニュアル文を作りまして、「こういうのがありますが、利用しませんか」というふうな形でやりました。そうなんです。そうしたら8年度は2回、6月1日現在で、7回も行っている。主として第3学年、4学年、6学年の社会科辺りで、実際にこの出前講座を学校でやっていると。ただこれも、一番の課題は、学校の側の意識の問題がネックになっていると言っております。それから県内につきましても、たまたま校長研修会で、新津市の部活動に対して、外部指導者を派遣していること。学校からの申請に基づいて外部の人が学校に出向いて、剣道とかバスケとかボール等々の指導を行っているという、所謂「スポーツ講師派遣事業」というのを既に前からやっていて、毎年その謝礼等を用意されて取り組み、成果を挙げているというふうに伺っております。また今年施行3年目ですが、長岡市では「長岡の人材教育」ということで学校分方式とか、共通方式、あるいは単独校方式といった形で、「学社融合」についての取組みが現に研究されて今年3年目を迎え、その成果が年度末に発表されるのではないかと思っております。学校のスリム化の問題も関わって参りますが、多様な子供たちの要求に対して、必ずしも職員の方々の活動内容を十分指導できる人がいるとは限りませんので、今後こういった形で市町村と学校が連携できたら大変ありがたいと思っております。

の取組みという案もまた、住民の中から出てくるという可能性が非常にあるうかと思っております。その積み重ねを大事にして行つていただきたいと思う訳です。これは既に実践されている所が沢山あります。その方法は是非続けていってほしいと思っております。

それからもう一つは、学習の効果を無視しないことだろうと思っております。地域づくりを学習するにしても、例えば地域の輝かしい未来をつくるためと、派手な目標を高々と掲げて、輝く未来を急いで作るうと焦ってしましますと、やがて息切れして長続きした活動にはなかなかならない。そうすれば住民の意識改革も進まなくなる、というところになるかと思っております。地域づくりの目標としては「心が安らぐ未来をつくるため」と、というような感じの緩やかなものを掲げてほしいなと。その目標を達成するために地域としてどんなことをやるか、地域の中にどんな力があるか、その力をどうやって集めるか、といったことを地道に、気長に何年度も考えていくと、いうことが大切だと思います。よく活動がマンネリ化するという話をよく聞く訳ですが、例えば心が穏やかに安らげる地域づくりの目標に向かっていく限り、何年度も同じ事をやれるというのは、これはマンネリではない訳です。言葉を交えて言えば、マンネリも恐れず、そういう長い、効果を無視過ぎない、そういう活動というのが、私は意識改革に繋がって行くんだらうと、そんなふうな考えをおこします。

●売したいというふうなお話がありました。きつきの情報化社会ということに関連があるのですが、コンピュータをやつていきますとホームページというのがあります。これは本当に便利なものとして、世界各国からアクセスすることが出来ますし、逆に自分のホームページを作ることで、世界中から見てくれる、ということが出来るシステムです。この辺の所は、サークルあるいは公民館活動、あるいは生涯学習活動と、それから地元の子供たちからのメッセージとかというふうなのを、鳥から世界各国に発信が出来るということですので、非常にまた面白いことが出来るのではないかと、考えました。

小宮 森山ヒナ子様お願いいたします。皆木 那の前にまず、今程小島様から話がありましたことですが、先程お話ししましたように、「いきいきスクール・ステップアップ運動」で、粟島浦村中学校ではインターネットを使ってやっておりますので、今の話を是非参考にさせてもらいたいと思っております。

今、小宮先生からお話がありました。が、たまたま「週刊教育資料」の537号に、福島県築石町の例が載っております。

小宮 それでは皆木先生、県の内外で「学社融合」のような取組みをした事業とか、そんなものもしありましたらご紹介をいただければありがたいんですが。

吉田 私さっき、意識改革の取組みをお願いした訳ですが、それをどうやって進めるかという話です。例えば公民館がやる講習会とか研修会ですね、講師がいて、講師が主役になって住民が静かに聴くと、住民が受け身になった方法だけでは、これは意識改革というのはなかなか、……結構な話を聴いただけで終わってしまうんじゃないかなと。私は、公民館活動の計画の段階から、もつと住民の声を聴いていってほしいと、そう考える訳です。住民側を主役にするということの一つの取組みが終れば、新たな次へ

※なお詳細記録は、十一月頃、各市町村公民館配布予定としております。

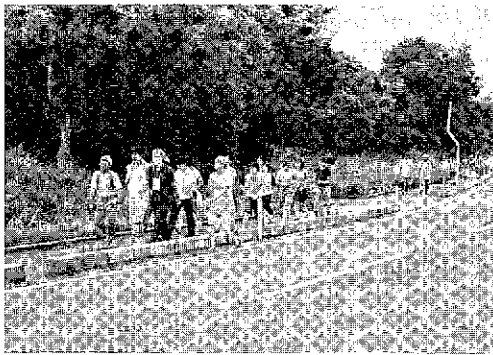
実践記録シリーズ(19)

松原湖一周のサバイバルウォーク

安田町中央公民館

一、はじめに

テレビやゲーム等が普及し、今の子供達はなかなか屋外で自然に親しむということがなくなってきた。安田町は、自然には恵まれている方であるが、それでも日常の生活の中で体験する機会は少ないのが実情といえる。また、力の有り余っている中学生を一日、目一杯歩いてもらい、自分の体力の限界に挑戦することや忍耐力を培って貰うという試みで始まった。福島県



42.195Kmへの挑戦

松原湖一周の「サバイバルウォーク」も今年(8月4日)に実施)で十三回目を迎えた。

対象は安田中学校三年生。希望者を募り、スタッフは、教育委員会職員、中学校教師が主体であるが、青少年育成町民会議の役員や一般のボランティアの支援によるところが大きい。

二、事業の内容

一泊二日の行程で、一日目は飯盒炊飯や翌朝のおにぎり作りなど、二日目は松原湖を一周する四二・一九五キロメートルを歩き通すものである。今年、中学生四十二名とスタッフ二十名が参加した。

三、一日目

朝九時、安田町中央公民館前で激励壮行会を行ない、バスでいざ出発。お昼頃、宿泊地である松原湖畔の、こたかもりキャンプ場に到着、班別にバンガローに分かれて、まず持参のお昼をばくつく。しばらくは釣みや散策等の自由時間と

する。

午後三時、班ごとに夕食作りを始める。メニューは自由としたが、カレーライスやそばがほとんど。なかにビーフシチュー、豚汁の班もあった。飯盒でご飯を炊くのは全員初めて、固いの、お粥のようなもの等いろいろ。それでもルーをかければ立派なものであった。後片付けの間に班代表で翌朝のおにぎり作り、丸いもの、三角のもの、大小いろいろ出来上がった。

暗くなって、キャンプファイヤーに点火したが途端にあいにくのどしゃ降り。みんなが引き揚げた後もむなしく炎だけが上がっていた。

就寝は、午後十時であるが、中三の諸君はいつ寝たことか？

四、二日目

午前三時起床。なかなか起きてこない班もあったが、洗顔等の後、バスでスタート地点へ出発した。

まだ辺りは真っ暗。懐中電灯を片手に五色沼の足許の悪い中、まずは元気に出発した。一時間ほどで明るくなってきたが、あいにくと雨が降ってきた。六つあるチェックポイントのうち二番目で朝食、午前七時である。食べ終って間もなく出発。時計周りで歩くため、ずっと右手に松原湖を見ながら歩くことになる。だんだんと先頭との距離が開いてくる。依然として雨が降ったり、止んだり、涼しいだけ歩き易いのかピッチは良い。お昼は同じキャンプ場であるが到着寸前に物凄く雨。慌てて傘等の雨具を持って走り

出すスタート。予定より三十分早く着いたので、一時間休んで十二時十五分に歩きだす。再度五色沼を通過してゴールに一番乗りは午後二時三十分。最終の者は四十分の遅れであった。スタートから休憩時間も含めて十一時間ほど、さすがに無口になっており、町長から完歩メダルを授与されて、やっと笑顔が戻った。帰りのバスの中、ほとんどが夢の中。将来苦しい時、ぜひ今日のことを思い出してほしい、と願いつつ帰途についた。(課長 釣巻 新記)

行動日程表

8月4日(火)	TIME	8月5日(水)
	午前3:00	起床・洗顔(移動準備)
	4:00	移動(マイクロバス)
	5:00	サバイバルウォーク(42.195キロ)スタート ★朝食と必要最小限の物の持ち参
	6:00	CP1 [雄国沼遊歩道] ★10分休憩
	7:00	CP2 [細野キャンプ場] 朝食★30分休憩
	8:00	CP3 [松原出張所] ★10分休憩
	9:00	CP4 [生活改善センター] ★10分休憩
	10:00	CP5 [こたかもりキャンプ場] 昼食★30分休憩
	11:00	CP6 [箸橋高原駅] ★10分休憩
	12:00	バスへ移動 帰町・出発 (警越道経由)
	午後1:00	休憩(S・A)
	2:00	中央公民館前到着・解散
3:00		
4:00		
5:00		
6:00		
7:00		
8:00		
9:00		
10:00		

《集合》(午前8時30分) 安田町中央公民館 激励壮行会

出発(マイクロバス)

休憩(S・A)

五色沼散策

到着

(昼食)
(自由時間・レクリエーション)
初めての人(役員)コース下見

夕食及び翌日の朝食の準備
(ハンゴウの使い方について説明)

夕食、後かたづけ

(自由時間)

引率指導者ウォーク打合せ
就寝(巡視 町民会議他)

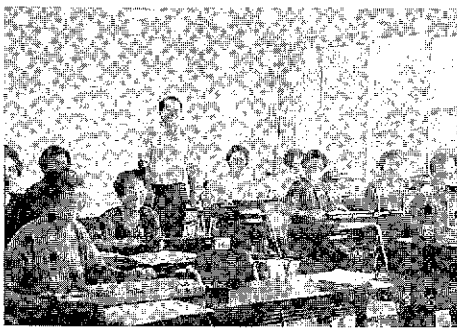
サークル交流

軽音楽をみんなで、ワイワイと大正琴で!

両津市公民館 大正琴自主教室

急がず、慌てず、止まらず、挫けず、をモットーにして、月に二回楽しくお稽古させて頂いています。現在約二十名程で、秋の県民会館の発表会に向けて「サバの女王」と「さそり座の女」五部合奏を練習中です。一番長い人で約五年、短い人で三年位なのですが、とっても筋のよい?人ばかりで、いつも笑い声が絶えません。

大正琴は、名前こそ古めかし



く聞こえますが、演奏曲目はあらゆるジャンルに渡り、演歌はもちろん、邦楽、長唄、ポピュラー、映画音楽、ベンチャーズまで楽譜が用意されています。〈指導者は大塚〉 楽器の方もソプラノ、アルト、バス、電子シンセサイザー型と、どんな音も出してしまいます。

左指の運動が右脳に良い影響を与える事は長く知られていますが、尚且つ右手でピッキングしますので、左右の指と脳が同調して、ボケ防止になるのです。激動の時代を乗り越えられた方々に、もっと楽しんで頂きたいと思つて居ります。

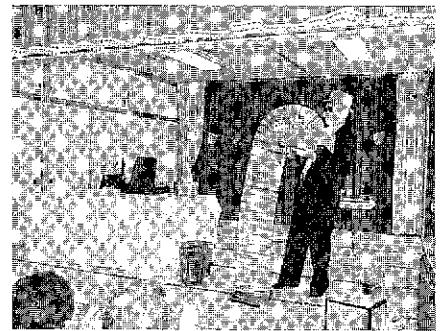
(社団法人大正琴協会 中川 照由 記)

マジックで人との交流を

深め若さを保とう

黒埼町北部地区公民館 黒埼マジッククラブ

会員A「おれは不器用でどうもこのロープのマジックのようなのはうまくできない。駄目だ。」先生「そんなにことないさ。もう一遍私といっしょにしてみた……そうそう。ほらできたねっかね。だれでも練習積めば



できるんだわね。」

これは、北部地区公民館での当クラブ例会の一コマである。

黒埼マジッククラブは、町立北部地区公民館主催のマジック教室の受講者を母体に平成六年十月発足した。現会員男女二十計七名、総て中年以上で還暦を過ぎた者四名を含む。マジックを通じて人との交流を深め、またボケを防ぎやる気をいつまでも!!を目標に、毎月第二、第四金曜午後七時から九時までを例会とし真摯な練習を重ねている。

講師伊藤敏郎先生はアマチュアながら斯道では著明なマジシャン。気さくで面倒見のよいお人柄に纏り私共は沢山のマジックを会得してきた。成果の一端は老人ホーム・地域小学校などで奉仕活動として披露している。(会長 齋藤勝得 記)

小千谷市社会教育課・公民館

主任 関 陽子 様

小千谷市で生まれ育ち、魚沼産コシヒカリをはじめとしたうまい食べ物と日本酒、そして旅行を友として早?年。ふと気付けば、病気もケガも知らずにスクスクと育つていた……。

そんな彼女の社会教育・公民館生活も二年目を迎え、主に新婚家庭や子育て、親子関係など家庭教育事業を担当。参加者にも年代が多いこともある



が、連絡を密にしながら事業発展のために頑張っている。また、各種講演会の準備などでも、男性職員顔負けのパワーを武器に、重たい物を一人でセッセと運ぶタフネスぶりを発揮するなど、貴重な存在となっている。

私生活では、三人姉妹ながら「長女」の利点(?)を生かして、愛する男性の元へと嫁いだ。しかし、二人だけの甘い生活を長く続けたいためか、まだ子供はいない。「予定は……」直接本人に聞いてください。(小千谷市社会教育課・公民館 佐藤 正行 記)

素顔拝見

青海町教育委員会

主事 須沢 和 様

数字ばかりを相手にしていた財務課から、今年の四月に教育委員会生涯学習課へ。

未知との遭遇とはこのことか。待たななしにスタートした

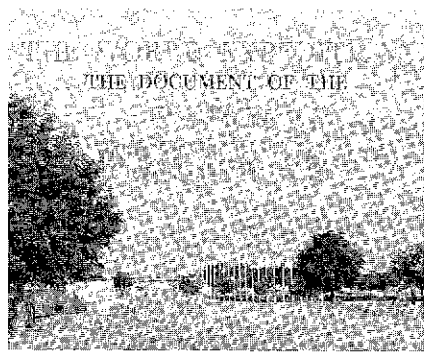
事業に追われ、人や電話の対応戸惑いは隠せない。でも、持ち前の努力と探求心で、一つ一つ確実に仕事をこなし、ユーモアのセンスのよさから職場の仲間にも親しまれ、近い将来には生涯学習課のエースと期待されている。



休日には、助手席に女性を乗せ(?)見事なテク

ニックで愛車アコードを乗り回し、見聞を広めようと長距離ドライブを楽しんでいる。また、職場のパレーボール部や野球部に所属し、サッカークラブも愛するスポーツマンでもある。

これからも青海町の生涯学習の若き担い手として、ソフトな対応と誠実をモットーに精一杯頑張つて欲しいと思う。(同町教育委員会 小野 敬記)



THE DOCUMENT OF THE

恵贈資料紹介

創立20周年記念誌

新潟県子ども会
連絡協議会



昭和51年5月15日、新潟市中央公民館で産声を上げた新潟県子ども会連絡協議会は、昨年創立20周年を迎え、その記念式典を11月9日下越婦人会館で挙げております。そして、20年の歩みの記でもある「創立20周年記念誌」も刊行されました。

今春六月、この記念誌が当連合会へも贈呈されましたが、今

恵贈資料紹介

日本ボーイスカウト新潟連盟
ガールスカウト日本連盟
新潟県支部

「ボーチャー'96国際キャンプ」の記録

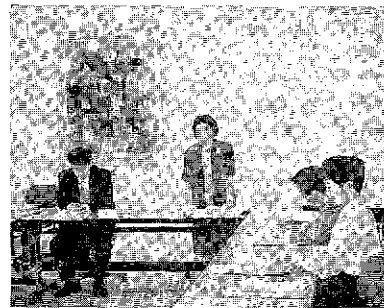
一九九六年、イギリス・リンカンシャーショウグラウンドで実施された「ボーチャー'96国際キャンプ」への派遣記録集です。日本ボーイスカウト新潟連盟34名、ガールスカウト日本連盟新潟県支部21名の派遣は、計り知れない貴重な体験と感銘を与え、無事終了したと、総合派遣団長の鹿野重様が巻頭に述べておられます。

内容は、①世界冒険旅行への出発②派遣レポートNo.1(B SN指導者)、No.2(GS指導者)、No.3(スカウト)③冒険旅行写真集、④派遣団レポートNo.4(正副派遣団長)から構成されています。とくに目を引いたところは、世界ふれあい紀行写真集で、途中立ち寄ったイタリア・ローマの古代遺跡の中で、またスイスアルプスの美しい山脈を背景に、派遣団員の生き生きとした姿が撮影されていました。

スカウト運動創始の国イギリスで、厳しい訓練と多彩なプログラムをとおして友情と信頼の輪を築かれて帰国された団員の皆さんに、敬意を表します。

平成10年度事業に関わる意見交換会開催

平・9・9・12(金) 於 県立生涯学習推進センター
新潟県社会教育団体懇話会事務担当者会



県社会教育団体懇話会事務担当者会

積極的に前向きな協議が行われた県懇話会八月総会の意向を受け、去る九月十二日加盟団体事務担当者会が開催された。内容は、(1)平成10年度の県生涯学習関係事業について、(2)各加盟団体の次年度事業計画等について、提出された資料に基づいて熱心な意見交換がなされた。

次年度事業等については未だ固まっておらず、十二月頃を目途に調整することとした。

あとがき

◇ 九・十月号にかけて特集した県大会シンポジウムの内容は、記録性と記載量を重視した結果、文字が細かく、読みにくかった、という苦言を二、三回

表紙解説

漢字の里

諸橋轍次記念館

平成四年オープン以来、広く教育文化の振興とふれあいの場として多くの人がご利用いただいています。(下田村中央公民館)

発行所 新潟県公民館連合会
〒951
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【TEL・FAX (025)224-6073】
発行人 会長 今井昭友
編集人 事務局長 鈴木友夫
【定価1部150円 年報1,800円】